

ゴトーマサミ「Face and Flower」

本展示はCOVID-19によるパンデミックが作家に与えた影響を作品に転換したものです。そもそも本展示自体、パンデミックの影響による当ギャラリーの休業やスケジュール変更等がなければ実施されませんでした。

日常や自由を奪われたことがどのように影響し作品に転換されたのか。
みなさまもご自身の影響と照らし合わせながらご覧下さい。

本展示作品は全てアナログで制作(暗室でのフィルム写真を手焼きプリント)されています。
作者の思いを紐解くにあたり、写真の技法についての解説を少し致します。

使用した人物の写真は5~10年前に撮影をしたもので、今回はそのネガをベースに制作されています。今までの常識が常識でなくなることを体感することとなった状況を様々な暗室技法を盛り込み表現しています。

□ アウトフォーカス

意図的に焦点を外してピントのボケた写真のことです。

本作品においてはピントをずらすことで特定の人物ではなく不特定多数の人々を示しています。マスクに隠れた素顔や、人と会う事が減り徐々に薄れていく記憶を意味しています。

□ フォトグラム

印画紙の上(レンズと印画紙の間)に直接物を置いて感光させる技法です。

物を置いた所は光が遮られ白い影になります。

本作品の一部は、顔はネガによって、花の部分は実際の花を印画紙の上に置くフォトグラムによって焼き付けられています。

□ ソラリゼーション

現像の際、現像途中である程度の強い光を直接印画紙に当てることによってモノクロ写真の白と黒が反転する現象です。コントロールが難しく仕上がりが予測しにくい技法でもあります。

白と黒が反転することは世の中の状況が一変し今までの常識が通用せず、新しい常識が現れるかのようです。先行き不透明な現在の不安感をコントロール不能なソラリゼーションと重ね合わせています。

□ ライトドローイング

直接印画紙にペンライトでのドローイングを行っています。

暗闇の中、露光時間内の限られた時間でペンライトを走らし、作者の感情を焼き付けています。

□ トリミング

大胆なトリミングは分断を、種類の異なる5種類の印画紙はパンデミックが世界中で起きていることを意味します。